

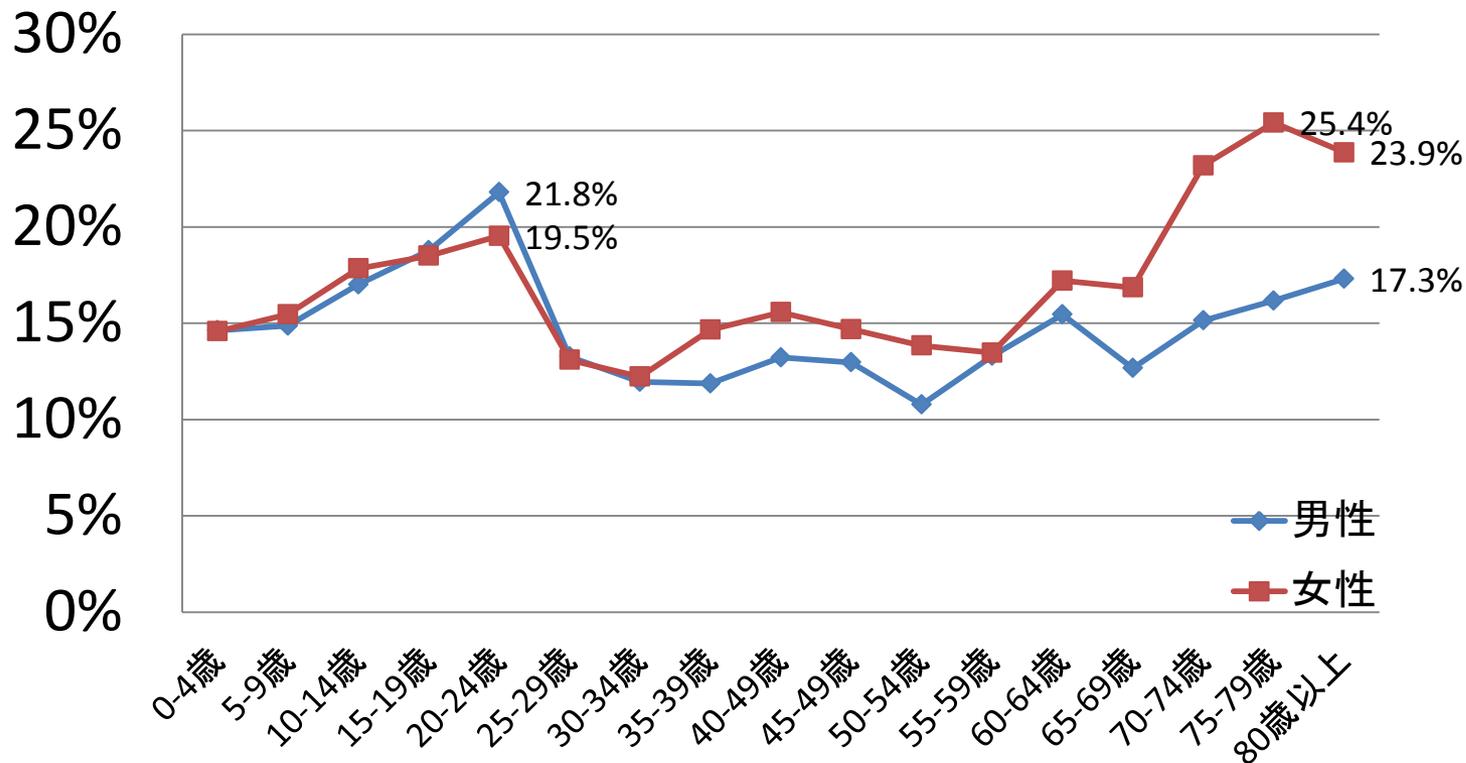
東京都 福祉先進都市東京に向けた懇談会  
2014年11月6日

# 高齢者の貧困と孤立

阿部 彩

国立社会保障・人口問題研究所

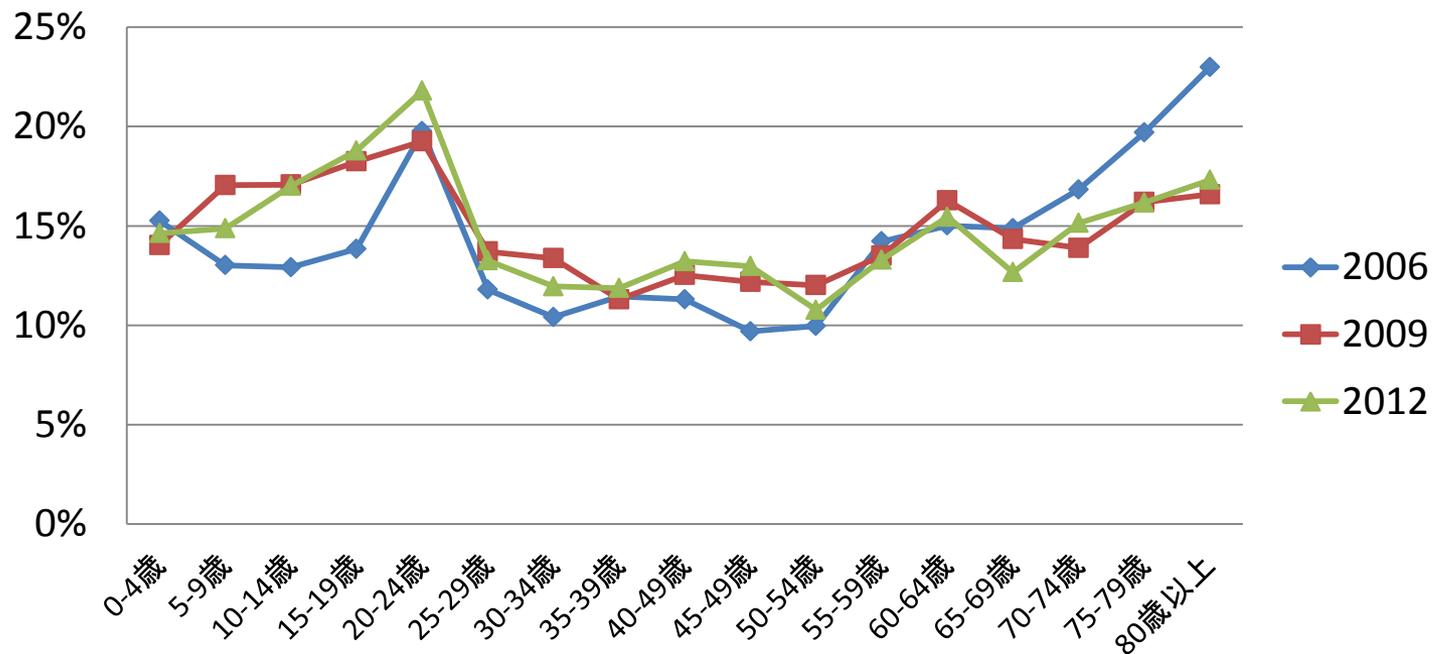
# 年齢層別、性別 貧困率(2012年)



- 年齢別、性別に相対的貧困率を見ると、男性においては20-24歳の貧困率が特に高く、25-29歳以降は10-13%で移行し、60-64歳から徐々に増加するものの、80歳以上でも17%台に留まっています。
- 一方、女性では同じく20-24歳で一つのピークを迎えますが、その後、50-59歳から急激に貧困率が増加し、70歳以上では20%を超える数値が続きます。中年期でも、女性の貧困率は男性よりも高く、35-39歳からは常に女性の方が男性よりも高い貧困率となります。

# 男性の年齢層別貧困率：時系列の変化

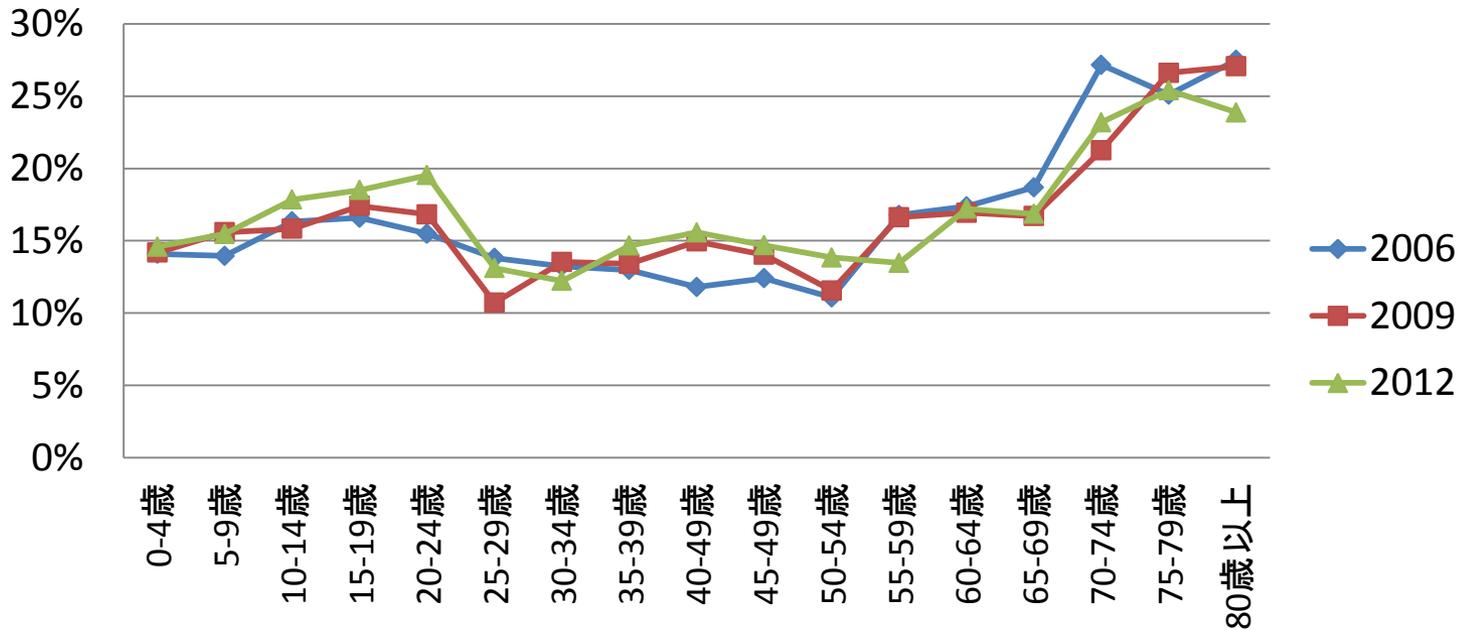
## 男性：年齢層別



- 2006年、09年、12年の男性の年齢階層別貧困率を見ると、まず、2006年から2009年にかけて、高齢層(65歳以上)の貧困率が大幅に下がり、その傾向が2012年にも確認されます。かつて見られた高齢者の貧困問題は、男性に限って言えば、解消の方向にあります。
- 一方、20-24歳をピークとする子ども期から20歳前半の貧困の「山」が2012年も拡大方向にあることがわかります。20-24歳の男性の貧困率は21.7%と5人に1人という状況となり、男性の年齢層別では、もっとも貧困のリスクが高いのが子ども期となっています。
- しかしながら、ピークの直後の25-29歳の貧困率は比較的に低くなっており、個人個人のライフコースから見れば、25-29歳になれば貧困のリスクが収まりつつある可能性があります。

# 女性の年齢層別貧困率：時系列の変化

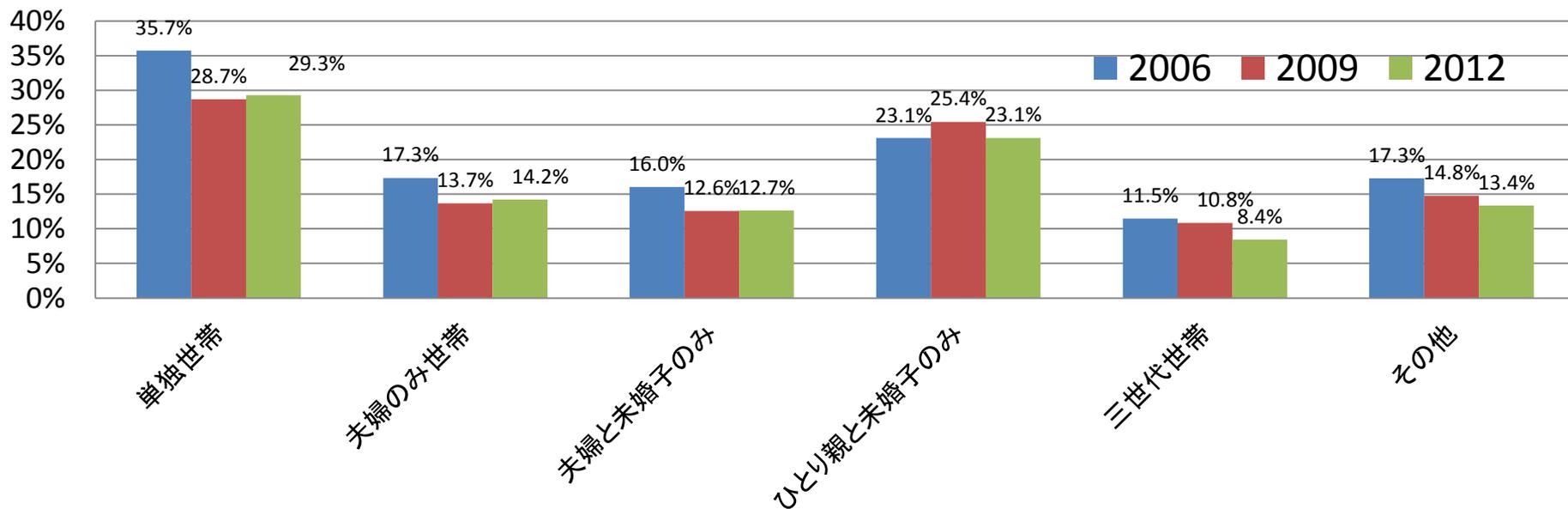
## 女性 年齢階層別



- 女性の年齢層別貧困率を時系列で見ると、男性で見られたような高齢者における貧困率の低下は女性では見られません。2012年の高齢女性の貧困率は、年齢階層別に見ると、80歳以上で低下がありますが、それ以外では2009年と大差はありません。
- 一方で、20-24歳をピークとする子ども期から20代前半にかけての「山」は徐々に大きくなってきています。
- 中年期(25-64歳)の貧困率は、2009年に比べて、大きな変化はありません。

# 高齢男性の貧困率：世帯タイプ別

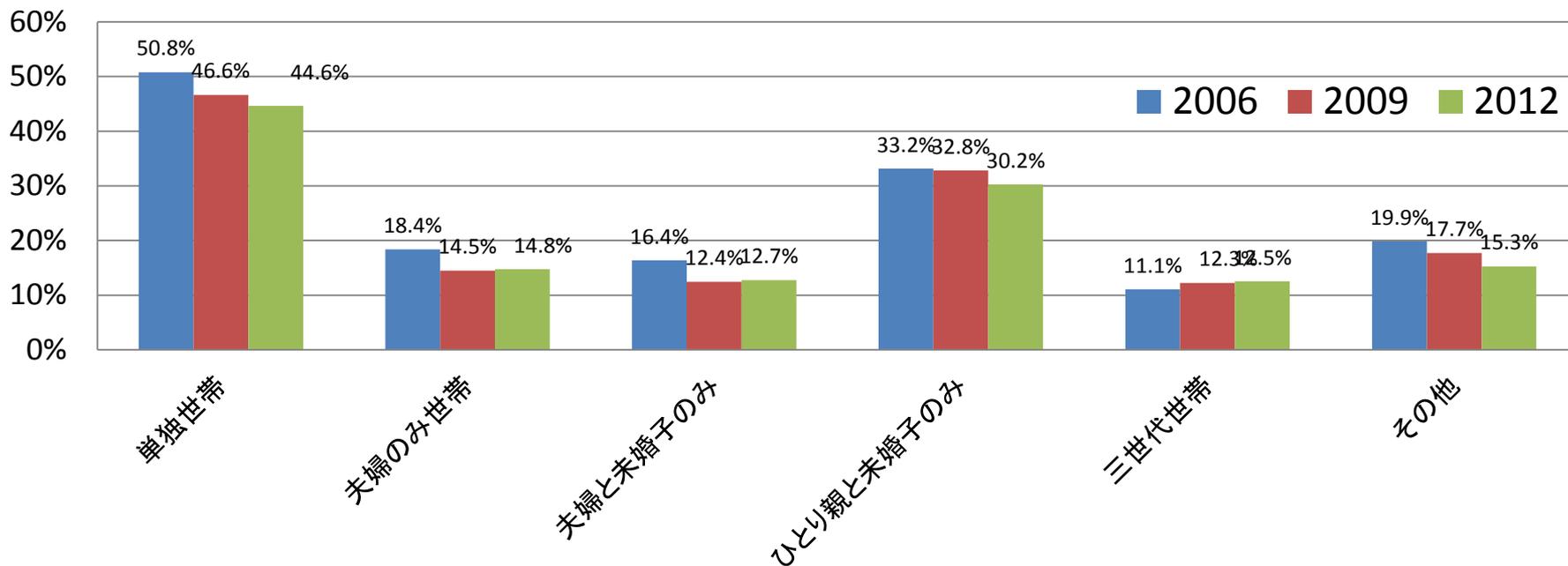
高齢(65+)男性の貧困率：世帯タイプ別



- 高齢男性の貧困率は全般的に低下傾向にあります。「ひとり親と未婚子のみ世帯」以外では、どの世帯タイプで見ても、2006年に比べ、2012年の貧困率が減少しました。

# 高齢女性の貧困率：世帯タイプ別

高齢(65+)女性の貧困率：世帯タイプ別



- 高齢女性の貧困率も全般的には低下傾向にあります。「三世代世帯」以外では、どの世帯タイプで見ても、2006年に比べ、2012年の貧困率が減少しました。
- しかし、単独(一人暮らし)世帯の貧困率は、未だに4割を超えています。

# 食料が金銭的な理由で買えなかった

世帯タイプ	総数	よくあった(%)	ときどきあった(%)	まれにあった(%)	まったくなかった(%)	無回答(%)
総数	11,000	1.6	4.7	8.5	80.9	4.4
子どもがない世帯						
単独世帯						
単独高齢男性	289	2.1	6.9	9.7	69.6	11.8
単独高齢女性	740	0.8	3.9	6.2	81.9	7.2
単独非高齢男性	940	2.9	6.8	8.8	75.0	6.5
単独非高齢女性	560	1.8	5.5	9.5	78.6	4.6
夫婦のみ世帯						
夫婦ともに高齢者	1,178	0.9	3.5	7.6	84.6	3.4
夫婦の一方が高齢者	331	0.9	3.9	7.6	84.9	2.7
夫婦ともに非高齢者	1,033	1.5	3.0	4.5	87.0	4.0
その他世帯						
高齢者のみ世帯	89	0.0	2.2	5.6	86.5	5.6
高齢者以外も含む世帯	2,799	1.4	4.1	8.9	79.8	5.8
子どもがある世帯						
二親世帯（三世代）	415	0.7	4.8	9.2	84.3	1.0
二親世帯（二世代）	2,059	1.5	4.7	9.9	83.5	0.4
ひとり親世帯（三世代）	142	3.5	9.9	7.7	78.9	0.0
ひとり親世帯（二世代）	234	3.8	10.7	17.5	67.5	0.4

注) 世帯タイプが不詳の世帯を除く。

「過去1年の間に金銭的な理由で家族が必要とする食料が買えなかったことがありますか」に対する回答（2007年調査）

# 公共料金の未払いや債務の滞納

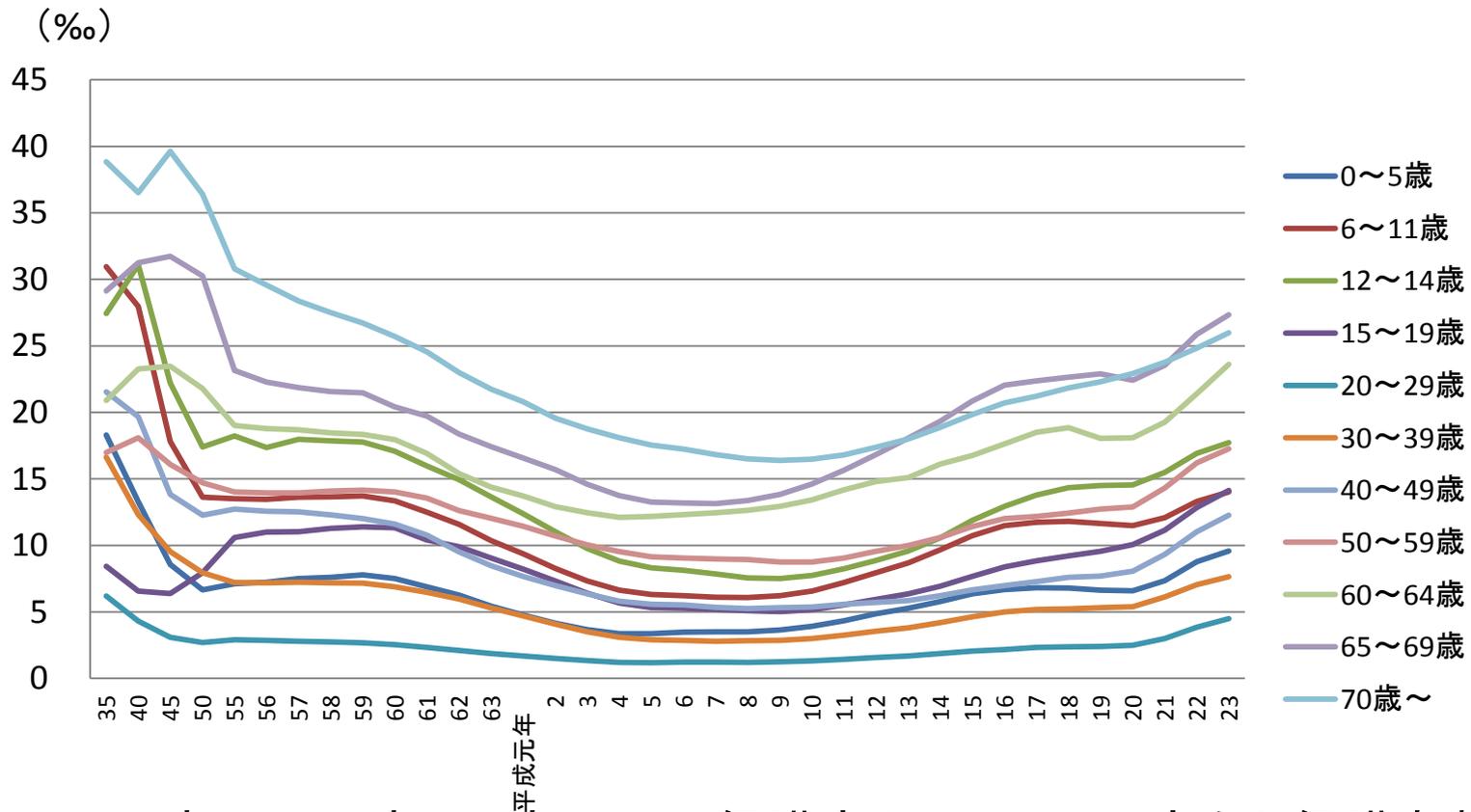
世帯タイプ	総数	電気(%)	ガス(%)	電話(%)	家賃(%)	住宅ローン(%)	その他債務(%)
総数	11,000	4.8	4.7	5.0	6.6	4.6	8.9
子どもがない世帯							
単独世帯							
単独高齢男性	289	5.4	4.6	5.8	6.9	4.8	10.6
単独高齢女性	740	2.6	2.0	3.0	4.8	1.7	3.6
単独非高齢男性	940	8.7	8.9	10.2	8.3	4.8	15.2
単独非高齢女性	560	5.8	4.8	6.0	6.5	2.6	9.8
夫婦のみ世帯							
夫婦ともに高齢者	1,178	1.5	1.4	1.4	4.3	4.2	3.5
夫婦の一方が高齢者	331	2.2	2.4	1.0	10.0	4.0	7.6
夫婦ともに非高齢者	1,033	3.6	3.5	3.6	4.2	4.0	5.5
その他世帯							
高齢者のみ世帯	89	2.4	0.0	3.9	0.0	0.0	6.9
高齢者以外も含む世帯	2,799	4.6	4.4	4.3	6.6	5.4	9.7
子どもがある世帯							
二親世帯（三世代）	415	4.0	4.0	5.2	0.0	7.9	10.0
二親世帯（二世代）	2,059	5.3	5.4	5.5	6.4	3.5	8.0
ひとり親世帯（三世代）	142	11.3	10.7	10.9	3.7	24.4	20.7
ひとり親世帯（二世代）	234	14.1	16.2	15.3	13.4	8.1	18.5

注) 「あった」とした世帯数 / (非該当と無回答を除く全世帯数)

とくにひとり親世帯は、すべての支払いについて(住宅ローンを除く)金銭的なストレスが大きい

ふた親世帯においても、約4-6%の世帯がさまざまな支払い困難、約10-13%は債務の滞納経験がある

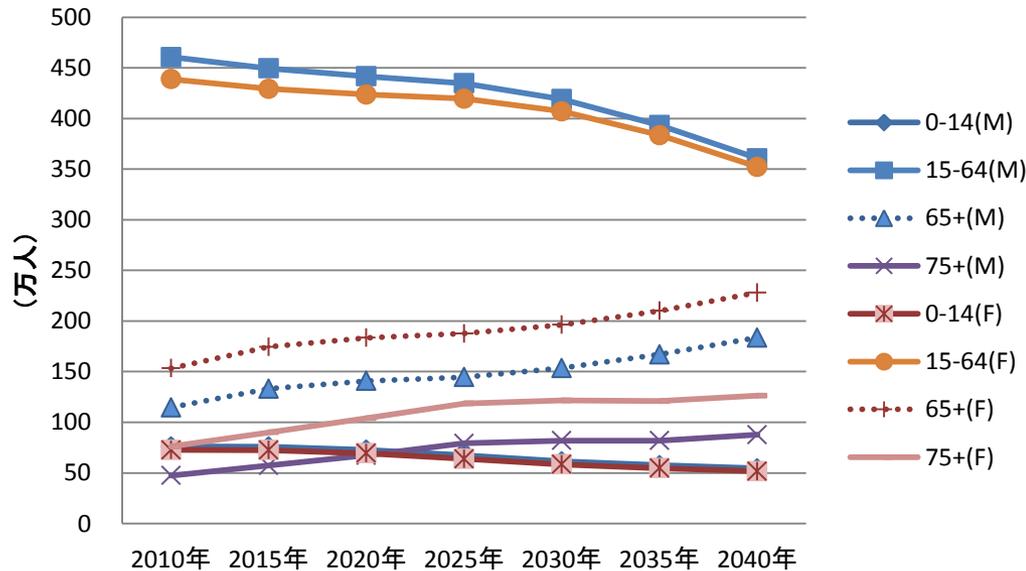
# 一方で生活保護の保護率は高齢層で増加



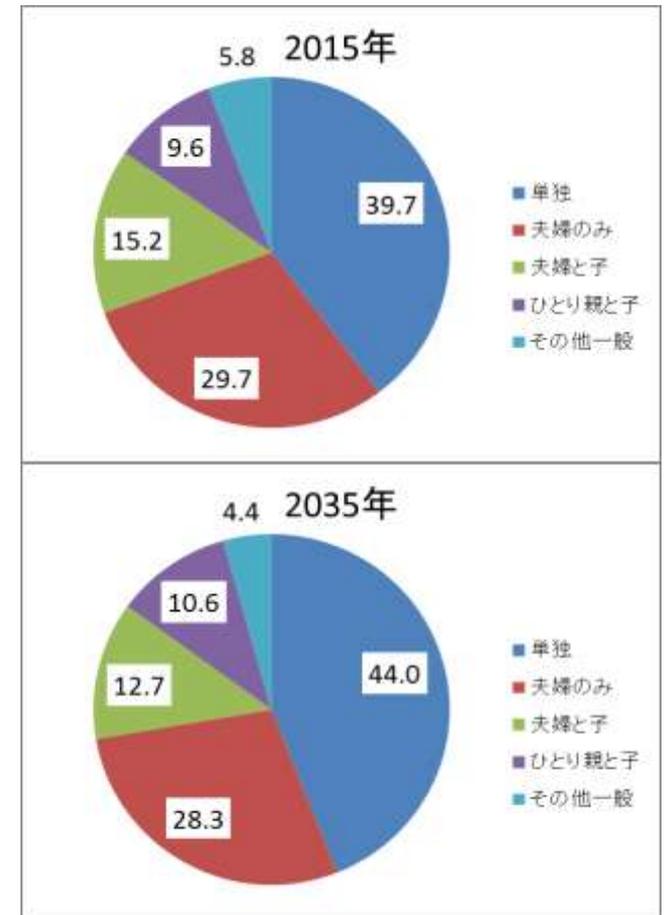
- 60-64歳、65-69歳、70歳以上の保護率（人口1000人あたり保護者数）は急増している
- 今でも、生活保護受給者の過半数が高齢者(+60)であり、その割合も数も今後ますます増える

# 高齢単身世帯の急増

東京都の年齢階層別 人口推計



東京都の高齢者(65+)の世帯類型 推計

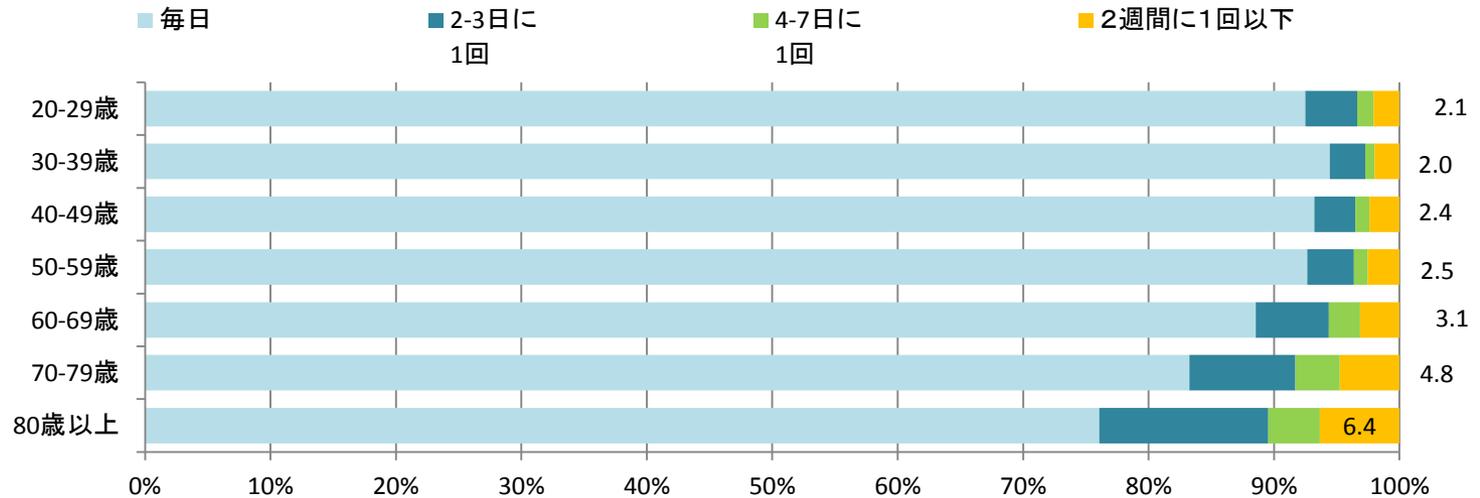


東京の高齢者(65+)は、2040年までに100万人増加

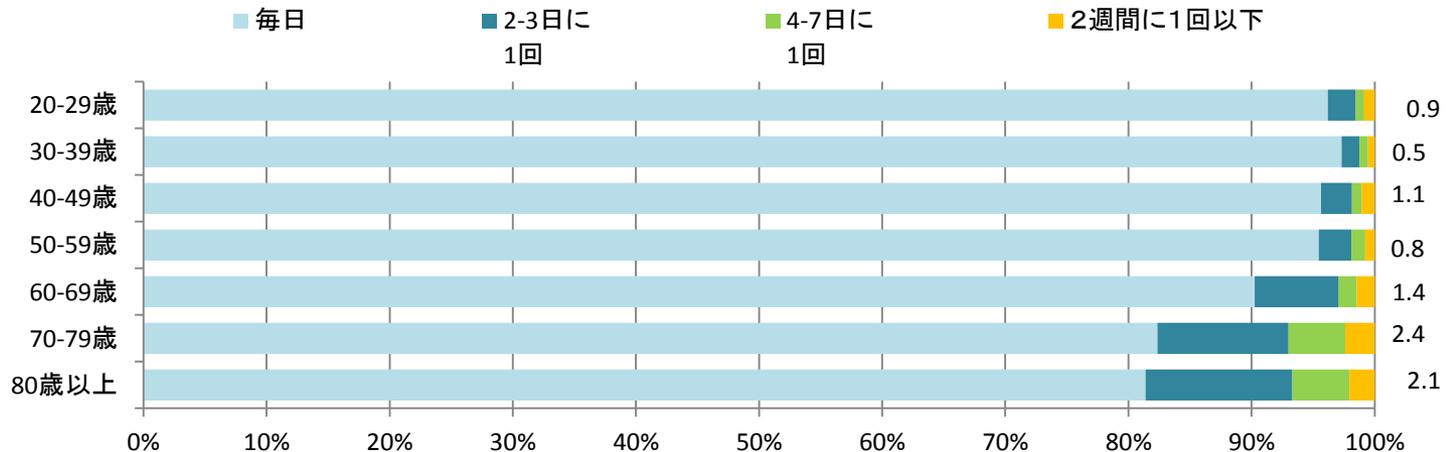
- 東京都における高齢者の増加 + 単身世帯の増加 = 膨大な**貧困かつ孤独な**高齢者世帯

# 社会的孤立の実態： だいたいの方は毎日会話をしている・・・しかし 全国で2.1%の人々は「2週間に1回以下」しか会話がな

男性



女性

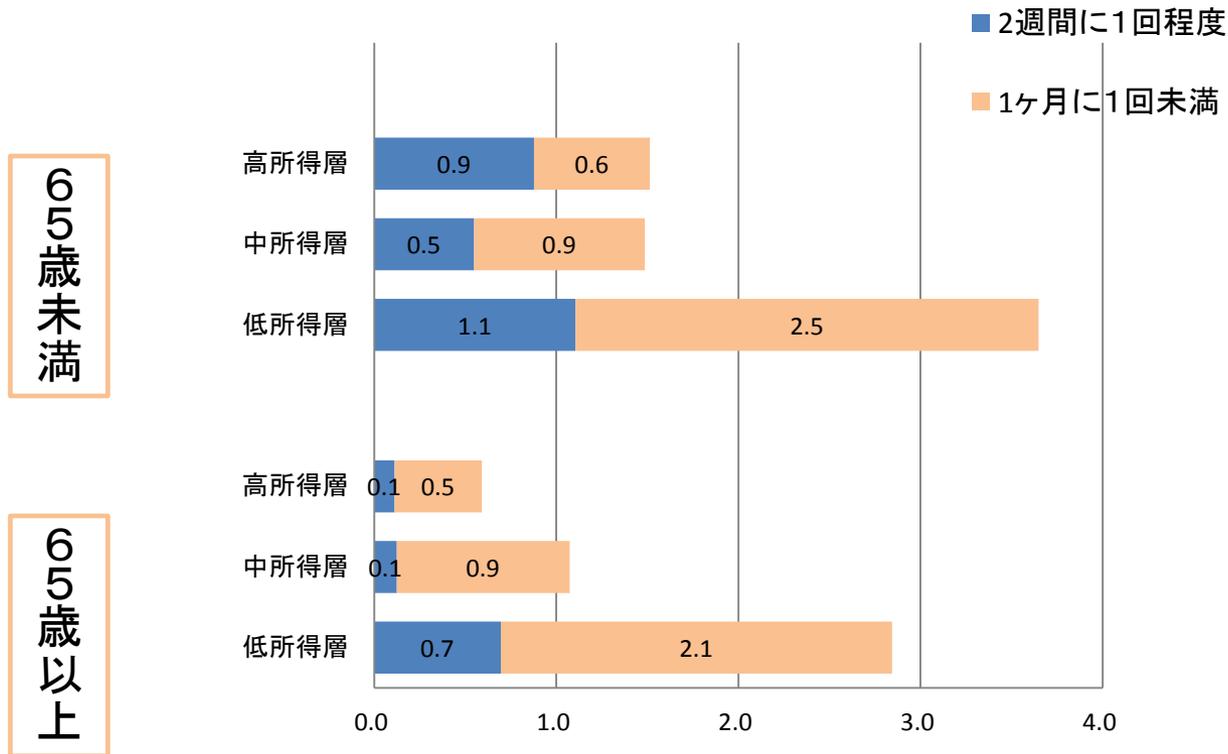


# 一人暮らしの高齢男性の6人に1人は孤立

世帯タイプ	総数	会話頻度 (%)			
		毎日	2~3日に 1回	4~7日に 1回	2週間に 1回以下
男性					
単独世帯	252	50.0	18.3	15.1	16.7
夫婦のみ世帯	1,338	85.4	8.1	2.4	4.1
女性					
単独世帯	646	62.8	24.9	8.4	3.9
夫婦のみ世帯	1,026	86.7	8.6	3.1	1.6

# 会話の頻度が極端に少ない人は低所得層ほど多い

## 会話の頻度



# すべての施策に貧困層の視点が必要

## 【医療・介護】

- 受診抑制が起こっている実態。経済的制約（保険料と自己負担）と、時間制約の問題の解消が必要。
- （在宅）医療も介護も、家族を前提としていないか

## 【生活】

- 住だけではなく、食、電気・ガス・電話、つきあいなどの生活必需品。最低限度の生活は守られているか
- 蔓延する高齢者の孤立問題。底辺にある貧困→「日常生活の継続」とあるが、病気でなくても介護が必要でなくても「日常生活」が脅かされている現実
- 「孤立死」「介護難民」の前の「社会的孤立」
- 具体的な「参加」の方法の欠如

# 提言

- 【(これからの)高齢者の生活実態の調査】
  - 東京都の地域別の高齢者の生活(経済状況、就労状況、健康状況、住居の状況、人との関係、地域との関係、支援の必要性等)の調査。問題のタイプ別に地理的分布の把握。将来の「貧困率」「孤立率」の推計。生活保護予備軍の把握。「労働力」としての高齢者のポテンシャルを推測。
- 【社会的包摂政策の計画】
  - 上記を踏まえた地域別政策の模索と提言。
  - 高齢者政策は、介護や医療政策だけではない。高齢者の生産性とWell-beingを同時にあげる方法の模索。
  - 年金・生活保護に頼らない高齢期の生活・所得設計
  - 東京都だからこそ、できる「未来像」